

多発性硬化症の医療費分析 平成 28 年度報告

班 員 荻野美恵子¹⁾

研究要旨

ビッグデータを用いて多発性硬化症 (MS) の日本全体の治療動向につき研究を行った。約 2 億人の雇用保険データから 494 名の MS を同定した。2011 年から 2014 年の間でも有病率が増加していた。DMT の処方状況は 2011 年よりインターフェロンが減少し、フィンゴリモドが増加していた。DMT は大規模病院でより処方されていたが、診療所でよりフィンゴリモドの処方割合が高かった。MS 一人当たりの月平均医療費は 10 万円であったが、疾患単位では患者数が少ないことより他の難病に比較して少額の負担となっていた。

研究目的

MS の日本全体の治療実態を把握する。高額治療薬の診療報酬上の取り扱いについて諸外国の現状をふまえて考察する

研究方法

JAMDAC レセプトデータ (2005 年から 2014 年の約 2 億人の雇用保険データ) を用いて多発性硬化症患者を絞り込み、治療医療機関属性、有病率、治療内容などにつき解析を行った。また、高額薬剤への対応について国際比較を行い、日本の現状を考察した

(倫理面への配慮) 連結不可能匿名化されたレセプトデータを用いた。

研究結果

あらかじめ規定した定義に従い、494 名の多発性硬化症患者を同定した。有病率は 2011 年の 0.015% から 2014 年 0.018% と増加していた。平均年齢も 42.8 才から 43.4 才

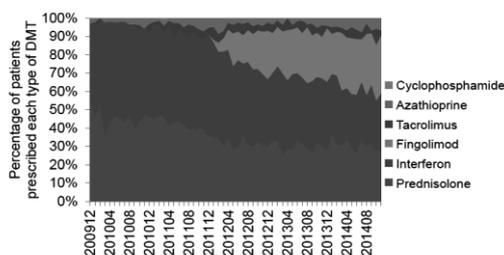
と上昇していたが、日本の年齢構成の変化を加味すると有意ではなかった。

Table 2: Prevalence rate of MS in each calendar year

	Calendar Year			
	2011	2012	2013	2014
Male	0.010%	0.011%	0.011%	0.012%
Female	0.020%	0.021%	0.022%	0.025%
Total	0.015%	0.015%	0.016%	0.018%
Female/Male	1.92	1.83	2.06	2.17
Mean Age	42.8	42.5	43.0	43.4

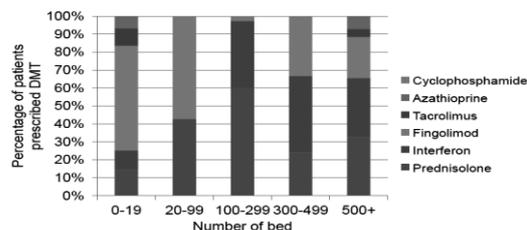
DMT の処方状況は 2011 年よりインターフェロンが減少し、フィンゴリモドが増加していることが確認できた。また、プレドニゾロンの処方割合が約 30% と多かった。

Fig 1. Percentage of prescribed DMT (Patients prescribed DMT = 100%)



DMT の処方および処方パターンは医療機

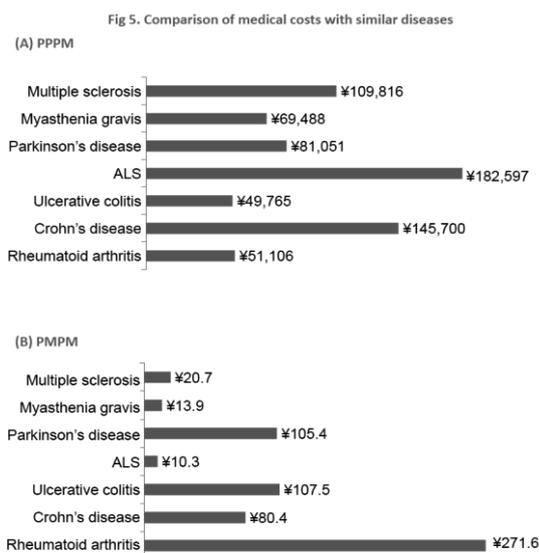
(B) 2014



1) 北里大学医学部附属新世紀医療開発センター横断的医療領域開発部門包括ケア全人医療学

関属性で異なっていた。診療所でよりフィンゴリモドの処方割合が高かった。

多発性硬化症患者一人当たり月平均医療費は 10 万円であったが、患者数が少ないことより、疾患単位で見ると他の難病に比較して少額の負担となっていた。



考 察

今回のデータベースの特徴から、高齢者の割合が少ないこと、抽出できた患者数が多くはないこと、全国からのデータとはいえ、このデータベースに参加しているという偏りはある可能性があること、などの影響がありえる。

高額薬品に対する対応は医療費増大抑制が叫ばれる中、ますます困難になっており、今回のオブジーボに対する対応を巡っても様々な意見がある。英国 NICE では保険診療とは別枠でがん基金を設け、最初の 2 年はこの基金を用いて市場に提供し、効果を判定した上で保険収載するかを判断している。ドイツでもまず保険償還するが、実績によりすぐに薬価見直し、切り下げが厳しく行われている。このように各国とも新薬に対するアクセスをできるだけ妨げず、

償還する工夫をしている。日本においては費用対効果制度の導入が以前から検討されていたが、なかなか導入にならなかった。平成 28 年より試行が開始され、ガイドラインができています。今のところオーファンは評価の対象外となっているため、多発性硬化症が指定難病である限り、費用対効果の分析対象には当面ならないと思われるが、高額医薬品によっては問題になることも考えられる。

結 論

MS 有病率が増加していること、DMT のシェアがここ数年で変化してきていることが確認できた。高額薬剤に対する対応は今後も検討が必要である。

謝 辞

レセプトデータを用いた研究は武田薬品工業株式会社 メディカルアフェアーズ部の協力で行った。本研究内容は第 57 回日本神経学会で報告した。

文 献

Ogino, M., Kawachi, I., Otake, K., Ohta, H., Otsuka, Y., Iwasaki, K., Hiroi, S. : Current treatment status and medical cost for multiple sclerosis based on analysis of a Japanese claims database. Clin Exp Neuroimmunol. 7:158-167,2016.

健康危険情報

なし

知的財産権の出願・登録状況

特許取得：なし

実用新案登録：なし